

カトリック六甲教会 教会報

2012

5

No.485

神のみことばを味わう

ダニエル・コリンズ神父

イースターが終わり、新しい勉強会が始まっています。私も、ヨハネ福音書を読む勉強会、ルカ福音書を読む勉強会、聖書を英語で読む勉強会、3つのクラスを担当しています。

それでは、みなさんは何のために勉強するのでしょうか？ いつから、そしてどうして、聖書が勉強の中心的なものになったのでしょうか？

ヨハネ福音書に「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。(20章31節)」とあります。

福音宣教は私たちにとって大切な活動です。それでも、全世界へ行って福音を述べ伝える、というチャンスは少ないことです。それにもまして、自分自身の福音宣教をしている人は少ないでしょう。

では、どのようなことをすればよいのでしょうか。「復活の証人」といわれた私たちです。証しをするために、何を始めましょうか。

それでは、ゆっくりと神のみことばを味わってみましょう。聖書を読み、祈り、考え、想い、思いを廻らし、神のみことばを味わうことは誰にもできることです。ただし、勉強ではなく、知識を得るためではなく、自分のために、ただ信じるために味わってみましょう。キリストは、人々の信仰を見て、病人を癒しました(マルコ2章1~12節)。自分の心の中に神を宿し、復活のキリストのことばを味わう——信じるのが宣教であり、生きることを身につけるためにも聖書に書かれていることばを味わいましょう。

ゆっくりと味わったことばを自分のものとして大切にしてください。もっているものを深めてください。自分の心の中で、そのことばの数々を生かすようにしましょう。

そうして、自分自身の福音宣教を始めましょう。



忘れないで

東日本の被災地から(2)

助任司祭 片柳 弘史

3月末、六甲教会の信者さんたちと一緒に被災地を訪れ、ボランティアとして支援活動に参加させていただいた。わたしは被災地での4日の滞在期間中、2日を大槌町で、2日を大船渡市で過ごした。二つの町を訪れて感じたことをご報告したいと思う。

(1)大槌町



大槌の町に入ったとき、わたしたちはみな唖然とした。津波から1年以上が過ぎているにもかかわらず、あちこちに建物や車の残骸が残り、復興の気配がまったく感じられなかったからだ。がれきの片づけはだいぶ進んでいるようだったが、辺り一面何もなく、まさに廃墟という感じだ。たまたま同行した高松教区の諏訪司教様は「これはひどい。まるで原爆直後の広島のような」と驚愕しておられた。

長崎教会管区の被災地支援拠点である大槌ベースは、廃墟の真ん中にぽつんと残った三階建てのビジネスホテルに置かれている。ベースから200mほど先には2階建ての大きな建物の廃墟が、窓は割れ、壁は崩れた無残な姿をさらしている。町長以下、数十人の町職員が津波に吞まれて命を落とした大槌町役場だ。

このベースを拠点にして、教会は仮設住宅での「お茶っこサロン」(お茶を飲みながら被災者同士が、あるいはボランティアと被災者が交流する場)、町の社会福祉協議会を通しての泥かき、漁業支援などを行っている。わたしは、「お茶っこサロン」と漁業支援に参加させてもらった。その中で感じたのは、町の再建は進んでいないが、人々の心はしだいに復興に向かって進み始めているということだ。仮設住宅

のお年寄りたちは、阪神淡路大震災による被災から立ち直った信者さんの体験談に目を輝かせていたし、漁師さん達はともかくわずかでも収入を得るためと悲劇の海に向かって船をこぎ出していた。彼らの姿には、復興を目指す意気込みが強く感じられた。その気持ちがある限り、町に活気が戻る日もそう遠い先のことではないだろう。



(2) 大船渡市

1960年のチリ地震津波で、大船渡は53名もの犠牲を出している。そのときの教訓が町づくりに生きているのか、大船渡では町の中心が内陸部にあり、家や教会も高台に造られている場合が多い。そのため、被害を受けた地域は町の半分程度にとどまっており、残った部分が失われた部分を埋めていくような形で、確かな復興の歩みが進んでいるようだった。町のあちこちから、土砂を移動し、建物の土台などを撤去する重機の音が響いていた。おそらく、全国から数百台の重機がこの町に集まっているのではないだろうか。

大阪教会管区の被災地支援拠点である大船渡ベース「地の森いこの家」は、津波の被害を受けた地域の一角にある。建物は、兵庫教会の信者さんが丹精込めて作った真新しい木造の平屋だ。周囲には流されずに残った家や、再建された家も多くあり、大槌ベースとはかなり印象が違う。

このベースを拠点として、教会は主に「お茶っこサロン」の運営や、高齢者の買い物・通院支援、被災信徒の支援などを行っている。余力があるときは、社会福祉協議会を通して隣町の陸前高田まで泥かきに行くそうだ。わたしは「お茶っこサロン」と津波で傷んだために伐採された木々の片づけを手伝った。

被災者の皆さんの話を聞きながら感じたのは、町の復興は進んでも、心に残った痛手は大きいということだった。特に津波で家族を流された人たちの心の痛みは計り知れないほど大きい。復興が進み、人々の心が次へ次へと進んでいく中で、彼らを取り残されないかが心配だ。彼らの心の痛みに寄り添うボランティアが、これからも末永く必要だと思う。



みな様のお祈りと神に感謝！

社会活動部 川越

大阪司教区が関わるENGOプロジェクト(engo@osaka.catholic.jp)、カリタスジャパン“大船渡ベース”ボランティア募集の呼びかけにこたえてカトリック六甲教会・社会活動部では、大船渡ベースへのボランティアを、3月末に4泊5日で企画。11名のボランティアを派遣させていただきました。

大船渡ボランティア派遣に集められたメンバーの年齢は、10代～70代までの高校生を含む(男性5名・女性6名)の11名。参加者は、様々な世代にまたがる多種多様な異色メンバーの集合体で殆ど皆、初対面。

六甲教会の信者だけではなく、未信者3名を含む雑居家族のような集まりでしたが、無事活動を終えることができました。それぞれが、それぞれの場所で、貴重な感動的ともいえる体験活動をさせて頂きました。(この体験談は活動報告書にまとめさせて頂きました。) これは、共同体のみな様のお祈りや、ご協力に支えられてできた活動だったと感じています。ありがとうございました。

東北大震災から一年が過ぎ、“今頃行っても？”と思われる方もあると思います。 NO! 今、だからこそ人の温もりや、話し相手が必要なのだと、現地に入って被災者の方とお話しさせて頂いたことで、ようやく分かりました。

大船渡ベース “地の森いこいの家” での活動内容は、地域の社会福祉協議会や仮設の自治会などから依頼される仕事以外にも、

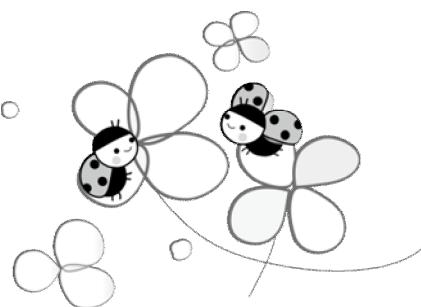
♪買い物送迎 ♪ベースでの喫茶サービス ♪仮設訪問 ♪がれき撤去 ♪フィリッピン人への日本語学習支援などがあります。

毎日違った種々雑多な奉仕活動があります。これらの活動は、年齢・性別を問わず自分にあったお仕事を選んで奉仕することができます。

大船渡ベースまでは、飛行機(仙台空港)⇒列車(JR一ノ関)⇒長距離バスを乗り継いで、移動時間を含めて約9時間かかります。

日本も広いな～と感じさせられる所です。でも、私にも“何か出来るかな?”と考える方がいらしたら、ぜひ行って下さい！ 同じ被災体験を経験した私たちだからこそ、できることがたくさんあるのです。

♪大船渡ボランティア派遣・活動報告書は事務所にあります。
お読みになりたい方は、お申し出下さい。



「出来事は全て、神さまの言葉」

(4月22日の報告会で配布しました感想文を要約したものです。)

窪岡

大船渡に到着したその日の夜、ケセン語訳聖書を書かれた山浦先生のお話を聴くことができました。先生は「出来事は全て、神さまの言葉」と話してくださいました。この言葉は、私の5日間の東北滞在において、大きな心の支えとなりました。

2日目からは、色々な活動に参加しました。私は大槌町視察、被災者の方の引っ越しお手伝い、仮設住宅訪問などをしました。大槌町は、本当に“何にも無い”状態でした。そんな“何にも無い”町が、車やバスでの移動中にいくつか見られました。また、ほとんどの地域でのボランティアが、“傾聴”がメインの関わりとのことでしたが、まだまだガレキ処理の必要な地域もあり、復興の地域差を感じました。

仮設住宅の訪問では、お年寄りの方とお話したり一緒に歌を歌ったり、子ども達と遊んだりしました。いろいろな方とお話させて頂きましたが、私の心に一番強く響いたのは、ある4歳の女の子の言葉でした。仮設住宅は高台にあり、道路脇からは津波で流された町の様子が見渡せます。その子がそこで立ち止まり、「ここで津波で、おばあちゃんと手、つないでたんだよ」と突然津波の話を始めました。「津波知ってる?」「ガレキ知ってる?」小さなかわいい声で話し続けます。私の心の中では、涙が止まりませんでした。

この5日間、ベーススタッフやボランティアの方々、地元の方々など多くの出会いがありました。被災地の現状を前にして、私は無力です。でも、「出来事は全て、神さまの言葉」、この言葉をかみしめることで、自分の無力さと共に、震災後様々な場所で生まれ続けているたくさんの“出会いの力”を信じることができ、津波で流された町の跡でイエス様がここに一緒にいて下さっていると感ずることができました。震災は本当に悲しいことでしたが、神さまの言葉を聴き続けたい、聴きもらさずに生きたいと思います。このような機会を頂き、本当にありがとうございました。



廃墟のあちこちで、死者たちに花が手向けられていました。その花を見る度ごとに、立ち止まって死者とそこご遺族のために祈らずにいられませんでした。



大船渡ベースにて、諏訪司教、山浦先生(ケセン語聖書訳者)と共に。



大槌町

写真撮影

片柳司祭

中高生会の錬成会が3月24日～26日までの3日間、小林聖心ロザリオヒルで行なわれました。

中高生会 錬成会を終えて

Sr. 古屋敷

錬成会、みんながいろんなプログラムを用意してくれて、私自身いい勉強になりました。人とつながるときには、相手のことを知ること、知ろうとする意欲を持つこと、努力をすることが大事だなと感じました。そして最終的にお互いに笑顔になれる関係になれば OK です。これからもつながりを作りつづけて、みんなが笑顔になれるといいなあ・・・



中2 菊池

今年は、去年よりも少し人数が少なくて、追い出される人が10人もいるというちょっとさみしい感じでした。私の知らない高2の人とか、あまり話したことのない人と話すことができ、いい機会でした。最初の方は、班の人と上手くやっていたか不安なところもありましたが、班の人達が面白くいい人達だったので、仲良くなれました。これが中高生会のみんなのいい所なのだと思います。私も、これからもこうやって初対面の人を迎えられるようにしたいです。

先ほども書きましたが、今年は10人追い出されました。私の知っている人や友達ばかりがいたので、これからの中高生会はどうなっていくのだろうと考えるとさみしくなりました。

しかし、いつまでもそういうわけにいかないの、私は、これからの中高生会をもっと積極的に、にぎやかにしようと思えました。(今はちょっと難しいですが…)そして、今の高2の人がもし帰ってきた時に、胸を張って迎えられるようにしたいです。

今回の錬成会は決してさみしいものではありません。これを機会により一層、中高生会についての関心、積極性が生まれたからです。初心にかえったようなこの気持ちを忘れずに、今後の活動も頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。



高3 山崎

錬成会に参加するのは今回が二回目でした。前回行くときはまだ教会に来始めてから半年ぐらいで知らない人が何人もいて、知っていてもほとんど話したことがない人だらけの状況ではじめての環境だったので不安はありましたが、面白そうって思いが強かったです。その昨年の錬成会から一年間学校でも教会でもいろいろ経験して、今回の錬成会を迎えました。今回は新高三ということもあり、プログラムを考えたりしていたため、前回の受動的な状況からは打って変わって、自分がなにかを下の学年に伝えていく番でした。そして準備がギリギリまでかかっていたため昨年よりも不安は大きかったです。しかしながらいざはじまってしまうと、本当にあつという間で不安に思うひまもないくらい楽しかったし、東北や世界のことについて考えていた充実した二泊三日間でした。中高生会に長い間いたわけではありませんが、多くの実りを得ることができました。下の学年がより多くの実りを得るように、今度はリーダーとして中高生会の活動を支えられたらいいなと思います。



4月5日、聖木曜日の典礼は「最後の晩さん」を記念して行われます。ミサの中で、イエスが晩さんの前に弟子たちの足を洗う場面(ヨハネ 13 章 1～11 章)を模して「洗足式」が行われました。

洗足式に参加して

中 2 柴原

洗足式で気づいたことが二つある。

一つは「洗うことで(何か)変わる」ことだ。ごミサの中で、聖変化の前に神父様が手を洗われる。日常生活においても、朝起きて、顔を洗うと、新しい一日が始まる。外出先から戻れば、手を洗ってうがいをし、一日の終わりにはお風呂に入って髪や体を洗う。体を清潔にして、病気を予防する目的が一番だが、体がきれいになると、気持ちもすっきりする。日本語の「足を洗う」のように、大それた変化でなくても、「洗う」ことで、心や体の汚れたところを文字通り洗い流して、古い自分から少し新しい自分へと「変わる」ような気がした。もう一つは「へりくだることの大切さ」だ。人の足を洗おうと思えば(正直なところ、そんなことは考えたこともなかったが)、人の前に身をかがめ、床に膝をつけなければいけない。しかも、足は体でもっとも汚れた部分である。僕はその足を赤松神父様に洗っていただいた。あまりに畏れ多くて、ペトロのように「手も頭も洗って下さい」とはとていえなかった。

僕は「誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」というみ言葉が好きだ。必要以上に自分を卑下することは、この世に自分という存在を与えて下さった神様に失礼だが、イエス様が、自ら弟子たちの足を洗って、模範を示して下さいのように、誰に対しても、どんな物事に対しても、謙虚な姿勢が大切だと思った。

新年度になり、僕にも後輩ができた。多くの先輩を見習って、僕自身も良いお手本となれるよう、そして自分が六甲学院に入学した日の喜びと感謝を思い出して、新たな気持で、毎日を過ごしたい。

.....

小 5 武田

4月5日に私はミサの中の洗足式にでました。私は第一朗読を読む人でした。第一朗読が終わって席に戻ると、とてもドキドキしました。なぜかという洗足式がもうすぐだったからです。私はイエス様が弟子たちの足を洗った話を思い出しました。弟子のペテロが「申し訳ない」と断ったのを思うと、神父様に洗ってもらえるなんてすごいと思いました。

洗足式の時、神父様は、銀のおけに水を入れて足を洗って下さいました。足を洗っていた時、私は横で神父さまのお手伝いをしているじしゃのお姉さんたちが、とてもかっこいいなと思いました。いつか私もじしゃのお姉さんたちみたいに洗足式でお手伝いしてみたいです。

.....

小 5 赤木

神父様がみんなの足を洗ってくださるのが、少しふしぎな感じがしました。きっとわすれないと思います。

.....

小 5 小田 康平

僕はこの前、洗足式を受けました。はじめてだったので少し緊張しました。ミサのとちゅう、聖堂でやるとわかって、少し安心しました。スリッパをはくことがいがいでした。足を洗う水は少しぬるかったです。足を洗ってもらって、一步、神様に近づけた気がしました。



4月7日(土)復活徹夜祭において洗礼式が執り行われました。受洗者の皆様、おめでとうございます。喜びの声が届いております。

洗礼の恵を頂いて

マリア仙田

洗礼のお恵みをいただいて、感謝と喜びと感激で胸が一杯です。私を受洗に導き、受洗を喜んで下さっている教会の皆様にご挨拶申し上げます。

私は神様の神殿になったのですから、思い、言葉、行いを律し、神様をお迎えするにふさわしい日常を送りたいです。また、このような大きな恵をいただいたのですから、何か神様に喜んでいただけることを日々の生活の中でしていきたいです。今後も皆様のご先達を宜しく願い申し上げます。

アッジジのフランシスコ 永原

「受洗者は前に出て下さい」いよいよその時が来た。4月7日(土)復活徹夜祭。人の前に出るのが苦手な私がこんなに大勢の前に出るなんて、『神父様・シスター・代父さん、そして主よお助け下さいー』絶対緊張すると思いつつ前に出たところ、『あれ?』何かが違う。こんな状況なのに思ったほど緊張していない。『おかしい、こんな状態で平静でいられるなんて。しかも緊張どころか、何か満ち足りた感じがする・・・これは何だ?・・・もしかしてこれは・・・もしかしてこれが愛なのか?聖堂の中には主と、そして皆さんの愛に満ちているのか?だからたいして緊張もせず、満ち足りた感じになるのかー!だとしたら愛って凄い!主よそして皆さん、ありがとうございます』

こうして、満ち足りた気分の中、終わりを迎えることができました。果してこれは愛なのか。愛ってなんだろう。更なる勉強をしなくては、と思うわたしでした。兄弟姉妹の皆様、宜しく願い致します。

鈴木律紡君代父 卯野

4月7日の復活徹夜祭で、鈴木律紡君が洗礼の恵に預かりました。

普段の教会学校ではマイペースでのんびりした表情を見せる彼も、徹夜祭のミサの前は落ち着かない様子で、周りの人に声をかけられても上の空といった風でした。

代父として側にいた私は、そんな彼の様子を見て、ミサや洗礼式に集中できないのじゃないかと心配しましたが、そんな心配とは裏腹に、ミサ中は落ち着いた様子で前をしっかりと向き、最後まで立派な姿を見せてくれました。

洗礼を受ける人というのはこうまでも立派になるものかと、私は側で感心していました。

今回律紡君の代父をさせて頂きいろんなことを感じました。教会という共同体の中で、彼が大勢の人々に愛されて祝福されているのを実感しましたし、ご両親や兄弟が律紡君をいつも優しく見守っている様子を見て、このご家族の強い支えがあって、律紡君はこの日を迎えることができたんだと、ひしひしと感じたのでした。

これからも鈴木律紡君が、家族や教会の皆さんに支えられて、力強く神の道を歩んでいけるよう、お祈りしています。

マリア・マグダレナ布柴

マリア・セシリア布柴

洗礼の恵を受け、娘と私は、大きな喜びで満たされています。心より敬愛する代母様、飯塚潔子先生、高橋恵美様 お二人を通して神様が私達を招いて下さった事を感謝



いたします。改めて、イエス様の御教えに従って生きていきたいと強く確信いたしました。

松村神父様、コリンズ神父様、片柳神父様、シスター出口様、そして六甲教会の皆様、感謝申し上げます。これからもお導き賜ります様に宜しく願いいたします。



初聖体・祝福式を終えて

4月15日 いくしみの主日の10時ミサにて、6名の子どもたち(初聖体1名 祝福5名)が初聖体・祝福式に与りました。今年の初聖体・祝福式は心地よい天気にも恵まれ、記念撮影の時は散り始めた桜の花びらも子どもたちを祝ってくれているようでした。ごミサの中で背の高い片柳神父様は子どもたちの高さまで身をかがめられ、その大きな手で初聖体と祝福をさずけられました。その子どもたちにむかってかがまれた姿に、そして子どもたちにかざされた神父様の手に、子どもたちを包み込むようなやさしさ、温かさを感じ、聖書の中でイエスさまが子どもたちを祝福された場面(マタイ19:13～)を思い出しました。これはリーダーたちにも、とても大きなお恵みを神さまからいただいているのだと、とても幸せな気持ちになりました。

また、片柳神父様の「初聖体・祝福式の子どもたちには形は違っていても、神様はそれぞれを同じように愛し、お恵みをくださっているのだ」と話してくださったことが、とても温かく心にひびきました。この教会の教会学校は、信者の子どもたちだけではなく、洗礼を受けていない子どもたちもたくさん来てくれています。感想文を読んでいると、神様はこの子どもたちに片柳神父様がおっしゃった「わけへだてのないお恵み」をくださっていることを感じます。以下に子どもたちの感想文を掲載いたしましたのでお読み下さい。これからも、教会の皆様と一緒に子どもたちの成長を楽しみに見守っていくことが出来ればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

また、初聖体・祝福式に際し、お祝いいただきました教会の皆様、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

(2年生担当リーダー:大橋 吉村)



【初聖体の子どもの感想】

佐藤

はつせい体は一人だったのでがんばりました。もっとはつせい体の人がいると思ったからです。ごせい体はもっとあじがすると思いました。でもあんまりあじがしなかったのでびっくりしました。でもおいしかったです。ごせい体が食べれてうれしかったです。いっぱい神さまのことを知ることができてうれしかったです。

すてきなパーティーをしてくれたお母さんたちと、いろいろ教えてくれたリーダーたちもありがとうございました。これからも神さまのことをたくさんおべん教したいです。



【祝福の子どもの感想】

西山

二年間イエスさまのことを学んで、イエスさまはやさしくてすごい人だと思いました。イエスさまの紙しばいの中でわるい人にどんな人でもかみさまはあいしていることを思い出させて、わるい人がよい人になっていったことがとてもいんしょうにのこっています。それから人がわるいことをすれば、イエスさまのもたれている十字かんの重さが、重くなることを知ってわたしも出きるだけわるいことをせずに、よいことをしようと思いました。



土井

ぼくは、はつせいたいしゅくふくしきでかみさまにしゅくふくされたことがうれしかったです。なぜなら、まだしゅくふくされたことがなかったからです。ぼくは、三年生でしゅくふくされたけど、おおき



《お 知 ら せ》

★ 宣教部会 ★

春の黙想会『研ぎ澄まされた心』～ イエスの愛に気づくために ～

日時:5月26日(土) 10:00～16:00 (15:00～教会聖堂でミサ)

場所:六甲学院生徒研修所

指導:コリント神父

会費:無料 どなたでも参加できます。**昼食持参**をお願いします。

※会場準備の都合上、参加ご希望の方は六甲教会事務所(TEL078-851-2846)までお知らせ下さい。

FAX 078-851-9023 でも受け付けます。当日参加も歓迎

★ 社会活動部より ★

5月2日(水)10:00 手芸の集い 於:第1・2会議室 どなたでも参加できます。

12日(土) 10:00 炊き出し(イグナチオホールお台所)小野浜グランドへ移動。

配食や小父さんたちのお話し相手だけでもOKです。

17日(木) 14:00 ベタニアの集い (イグナチオホール)

20日(日) 10:00 ミサ後 ふれあい広場(イグナチオホール)手作りコーナー、有機野菜、東北支援等。

25日(金) 9:30 ともしび ケーキづくり お台所

★ 三日月会より ★

5月21日(月) 三日月会例会 「介護保険について」学びます。

講師:平岡千里氏(特別養護老人ホームうみのほし副施設長・社会福祉士)

「介護認定」「介護サービスの種類と利用の仕方」などのお話をお聞きます。

詳しくは会長・鈴木肇(TEL904-7009)まで。

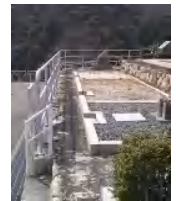
※ 三日月会以外の参加、歓迎いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

★ 墓地委員会より ★

- ・春の納骨者の共同墓地名盤への刻銘が完了しました。ご確認ください。
- ・現在の名盤では後約60名分しか刻銘できません。近々に拡張をいたします。
- ・危険箇所の手摺新設工事が完工しました。安全にお墓参りをいただけます。
- ・今後の予定ー石段脇の手摺のかさ上げー今までの短か過ぎ。

B地区、石段の改良ー段数を多くして上りやすくする。

お気付きの点やご要望はどんどんおっしゃってください。(墓地委員会 SF)



★手作りコーナーからのご報告★

教会の活動の一つとして、毎月第3日曜日、イグナチオホールで手作りのもの、お弁当、手芸品などを販売しています。基本メンバーは10名ですが、毎回お手製のケーキ、寿司、パン、季節の惣菜、お米など、様々なご寄付を多くの方々から頂戴しています。一方で、信徒の方々にお買い上げ頂いております。いつも温かいご支援にメンバー一同心より厚くお礼申し上げます。前年度、収益金¥200,000は六甲教会・旅路の里・アフリカ支援の会・東日本大震災献金、各団体へ寄付させて頂きましたこと、ご報告いたします。これからも皆様のお気持ちを支えに、細々ながらこの活動を続けて参りたいと思っています。共同体の方々との交わりの中で、祈りながら働けますように願っております。感謝と祈りのうちに。(手作りコーナー一同)



みんなの広場

Mater Dei et Mater mea.

ヨハネ三好

子供がママに甘える、そんな雰囲気を感じるこの言葉も由来はどうだったか。

フランシスコ会訳では「イエスは、母とそのそばに立っていた愛する弟子とを見て、母に『婦人よ、ご覧なさい。あなたの子です』。それから弟子に仰せになった。『見なさい、あなたの母です』』となっていた。「婦人よ」、子が母に向かって言う言葉ではない。新共同訳でも「婦人よ」となっている。ラゲ訳でも「婦人よ」と訳されている。手元にある英訳ではただ「He is your son」となっているが、1951年の imprimatur がある英訳では「woman」で原典のラテン語は「mulier」となっていた。

「母はこれらのことをことごとく心に留めていた」。マリア様の心を貫いた最後の剣、シメオンの預言の成就是あまりにも残酷なものであった。そして主の最後のみ言葉は「成し遂げられた」であった。

5月は聖母聖月、そして今は聖母の前で嬉々として讃えて歌おう。

Mater Dei et Mater mea.

<p>教会報 5月号の発行は、6月3日(日)です。 編集会議 5月27日(日)です。 記事原稿は、5月20日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 松 村 信 也 編 集 広 報 部</p>
---	---